

地方は独自の魅力で人材を引き寄せようとしている。

北海道は首都圏で人材募集

「この夏、涼しい北の地にプチ移住」。北海道の人材紹介会社アスクゲートはゴールデンウィークが終わると旅行案内のような求人広告を打った。「北海道グルメを楽しめるパーティーを毎月開催」と大きく書かれた広告で、今年から掲載エリアを首都圏だけでなく大阪にも広げた。「北海道の人材が本州に奪われるので、北海道の魅力で奪い返す」と同社の斉藤三寛社長は狙いを語る。

北海道では農作物の収穫で忙しくな

る初夏から秋にかけて、農家は「出面さん」と呼ぶ日雇い労働者を雇ってきた。従来であれば地元の人で足りていたが、本州の都市部に人手が流れてしまうのに加え、高齢化が進み十分な労働力が確保できなくなった。そこで農家や農協から短期労働者を求める注文が人材紹介会社に入るようになってきた。

「時給は800円から」なので自動車メーカーの期間工と比べれば賃金水準は5割以上も低い。しかし賃金だけで働く場所を決める人ばかりではない。トヨタの工場で働いていた宇都宮さん(28歳)は「ここなら働く仲間と交流がある」と笑顔で話す。

日本の労働力人口はピークだった1998年(6793万人)から2013年までの15年間で216万人減った。厚生労働省の推定では、17年後の2030年までに労働力はさらに894万人減少する(現状継続ケース)。人手不足は技術系など専門性の高い人材にも広がっている。どんな企業もこれまでの4倍速で進む人手不足と無縁ではられない。

一方、働き手にとっては就職しやすくなり、仕事の選択肢が増える面がある。

日本を直撃する人手不足。企業の経営や人の働き方をどのように変えていくのか、連載を通じてその実態を明らかにする。

(坂田 亮太郎) 